

集会所を「預かりの場」に

2014.5.19 大阪毎日新聞

大正区南恩加島「天空のもり」

小学生放課後事業スタート

先生は地域住民

大阪市大正区の南恩加島公園集会所で学校を終えた小学生を預かる放課後事業「天空のもり」が始まった。プログラムはそろばんや習字のほか、一風変わった文章塾などがあり、講師の多くは地域に住む人たち。塾もなく、学童でもない「第三の場所」は、日常的に使われることのない地域の集会所の新たな活用法の一つとして注目を集めている。

(光長いづみ)

■年数回の使用

南恩加島公園に隣接する集会所は、199

6年に建設された。時代が変わったのでしょ

2年前に山下会長らが集会所運営委員会を立ち上げ、周辺の約2300世帯にアンケートを実施。すると、若い世代では集会所の存在さえ知らなかった。今後について「子どもを預かりの場」との声をあり、同時期に地域型放課後事業「天空のもり」を立ち上げた。多喜博子さん(40)とともに、活性化プロジェクトが動き出した。

■地域で育てる

「子どもを預けて仕事をやる後ろめたさをなくしたい」と多喜さん。自身に子どもはいないが、周囲の働く母親の多くは「家庭・子育て」と「仕事」のはざままで揺れていた。ただ、その「後ろめたさ」も「水泳などの習い事や学習の時間に充てている」と考えると、ポジティブに変わる「こと」も知り、事業を立ち上げた。

大阪市の各小学校では「児童いきいき放課後事業(いきいき)」を実施しており、利用料は実質無料だ。しかし、利用時間はほとんどが午後6時まで。天空のもりでは、通勤や残業も考慮し、午後8時まで預けることができる。

入会金は2千円。週の利用内容や回数により、月謝を払うことになる。有料のプログラムでは、遊びのエッセンスを取り入れながら文章力を付ける文章塾やダンスレッスンもあり、「講師はプロフェッショナル」と多喜さんは自信をみせる。

「子どものためには、親や大人との関わりが必要で、この地域の子どもたちを町の中でいかに育てるかだと思つ」と山下会長。予定している講師の10人のうち8人は区内在住者なのも特徴だ。



地域型放課後事業をスタートさせた山下会長、ダンス講師の大原順治さん、多喜さん、音楽講師の岸本延子さん(左から)

午前中は、大人と幼児の部として、健康体操や親子リトミックなどのプログラムを実施。5月7日にスタートし、まだまだ手探り状態だが、多喜さんは「日常を忘れて自分を知るきっかけになる場所になれば。いろんな世代が集まる場所にした」と意気込む。

「天空のもり」のホームページは次の通り。
http://tenkunomori.jindo.com/